

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2021年 2月 6日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」備前三門校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		利用者のニーズによってスペースを考慮している。	対応の許容を拡充するように取り組む。
	②	職員の配置数は適切である	6		お子様の対応に充当できるようにしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		各利用者の過ごし方によって構造化して、バリアフリー化や情報伝達の精度を高めておくように心がけている。	出来る限り情報伝達がリアルタイムで行えるように取り組む。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		お子様の活動に合わせた生活空間と清潔感のある空間を保持できるように取り組んでいる。	日常的にこの状態を保持できるように意思統一を図っていく。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		担当または担当以外のお子様の状況や目標などを職員間で共有することで対応力の向上を図っている。	お子様の状態の変化などもリアルタイムに共有できるように取り組む。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様からの評価をいただき、各々のご家族の意向を把握して果敢に取り組んでいる。	保護者の思いをいち早く察知できるようにすることを目標とする。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		毎年自己・保護者向け評価をして、その結果を会報やホームページで開示している。	評価結果について、改善すべき事項が早期に具体的に可視化できるようにすることを目標とする。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6	現在外部は実施していない。	今後、他療育事業所との比較なども含めて外部評価をすることで業務スキルや療育の質の向上・改善につなげたい。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		定期的に研修の機会をいただき、受講している。	療育における幅広い知識や意識の拡充を図るために外部の研修もリサーチして参画していくようにする。
適切な支援の	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		日々お子様の変化を感じながらアセスメントし、定期的に個別支援計画を作成している。	お子様の無意識に発信する課題やつまづきそうな因子を察知・分析し、計画に網羅できるようにしていくことを目標とする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		個々のお子様のニーズに応じてアセスメントツールを使用している。	ニーズの変化に伴い、どのアセスメントツールが切なのか瞬時に察知できるようにすることを目標とする。

提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		児童発達支援の提供すべき支援を把握し個々のお子様の発達や家族地域性を保護者との連携で把握することで、具体的な支援内容の選別または系統を把握して複数のアプローチができるように心がけている。	個々のお子様の発達の変化にいち早く気づき、保護者との情報共有と連携が一連の取り組みになることを目標とする。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		支援計画に沿った支援を実施している。	お子様の発達の変化にいち早く気づくことが出来た時に、保護者との連携と計画の変更が能動的にできることを目標とする。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		プログラムの立案や話し合いを定期的または必要な時に随時実施している。	立案をチームで実施しながら、個々の特性に沿った対応の統一や許容対処などを模索していけるようにする。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		常に複数のプログラムを常備して支援を実施している。	個々のお子様の心情が汲み取れながら課題に即せる導き方を模索する。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	6	個別活動が主な活動となり、集団且つ同の計画は作成していない。	集団活動が必要と感じるお子様や保護者に適切に集団療育事業所の紹介をして利用を促している。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		昨日の振り返りも含め、朝礼時に話し合うようにしている。	振り返り・確認事項のアウトプットし合うことで、的確に連携を図れるようにしていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		就業時間の厳守を図るため、緊急事項の連絡のみ実施する。	保護者様との連携が長引くことがあるので、緊急的な連絡・連携事項は別時間で連携を図れるようにしていく。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		日常的に支援の記録の徹底を図っている。	誰が読んでも判りやすく簡潔な文面の統一を図っていく。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		定期的モニタリングすることで、見直しは必要と感じている。	課題やつまづきの前兆を予測しながら保護者との連携を大切にしている。
	関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		サービス担当者会議にはお子様を担当する指導員が可能な時にまたお子様の状況を把握して児発管は随時出席している。
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		母子保護における関係機関との連携を図っている。	お子様の危機的状況が読み取れたら迅速に連携できるようにする。

との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	現在、重症心身障害のあるお子様の利用は現存しない。	該当するお子様の利用が予定する場合、事前に地域の保健医療、教育等の会異形機関との連携ができるように取り組む。
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6	現在、重症心身障害のあるお子様の利用は現存しない。	該当するお子様の利用の予定する場足、事前に主治医や協力医療機関との連絡体制と整えられるよう取り組む。
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	保護者の意向があった場合、左記機関との情報共有と相互理解を図っている。	保護者との連携を密にすることで信頼度を獲得し、入園、または進級のタイミングで、療育利用事業所として保護者の意向で文書明記してもらえよう取り計らえることを目標とする。
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	保護者の意向で左記機関との支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	保護者との連携を密にすることで信頼度を獲得し、入園、または進級のタイミングで療育利用事業所として保護者の意向で文書明記してもらえよう取り計らえることを目標とする。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	左記専門機関との連携やご助言、または研修を受講させていただいている。	連携やご助言の頻度を上げて、療育の質の向上や意識向上を図れるようにする。
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	現在、左記のような活動を実施していない。	今後、左記活動などを導入できる環境づくりができるようにすることを目標とする。
	保護者	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	定期的に参加してる。
㉗		日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	保護者との連携を密にすることで、お子様の状況や課題の把握を図っている。	保護者の思いとお子様の状態についての擦り合わせや発達の兆しを保護者と共有して療育と生活環境での意向の一致を図れるようにする。
㉘		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6	現在崎のようなプログラムは実施していない。	個々のご家族の支援プログラムで保護者の対応力の向上を図れるようにすることを目標とする。
㉙		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	契約時または保護者から説明を求められた際に判りやすく説明する様工夫している。	今後も運営規定や負担額等について、明確に説明できるように心がけていく。

への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		児童発達支援の提供すべき支援を考慮し、定期的に個別支援計画を作成し、その計画を保護者にお示しして同意を得ている。	保護者との連携を密にすることで、お子様の発達の兆しや課題の前兆などを察知し、支援者からも個別支援計画の変更を促せるようになることを目標とする。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		保護者の意向があったら随時、相談に応じて助言させていただいている。	保護者がお子様の育成に意欲が持てるようなお声かけができるようにする。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	現在、保護者同士の連携の支援はしていない。	双方または複数の保護者から連携を求められた場合には対応できるようにしていく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		保護者からの相談・申し入れにはできる限り迅速に対応の体制を整備し、適切に対応できるように心がけている。	以後も状況の把握は勿論相談内容や申し入れの趣旨を迅速に把握・対応することで保護者からの信頼を得る様、取り組む。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		1か月に2回、活動概要や情報をホームページに掲載し、緊急時の連絡手段としてラインアットを開設している。	「きらり」の利用情報などもリアルタイムで発信できるようにしていく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6		個人情報の徹底を図っている。	職員の意識の維持の為、定期的に個人情報の保持の徹底の意義を唱えていく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		お子様と保護者の意向の擦り合わせに取り組み、意思疎通を図っている。	保護者様の意向とお子様の状態に対応して柔軟に擦り合わせする為に細目に情報伝達を図っている。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6	現在、地域住民の方々を招待するような行事の運営をしていない。	今後は地域の方々を招待できるような行事を企画し、地域に開かれた事業運営ができるように心がけたい。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		月1回のペースで各種マニュアルに準じて訓練を実施している。	今後も継続して訓練し、緊急事態に冷静かつ迅速な対応ができるように取り組んでいく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		月1回、防災訓練を実施している。	今後も訓練を継続して、咄嗟の時に冷静な判断で迅速な行動ができるように取り組む。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		各々のお子様の状態を確認・把握して支援に取り組んでいる。	お子様の状態を把握して支援中の変化にも柔軟に対応できるように心がける。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		6	お子様の状態として把握するが、食物の提供は実施していないので医師の指示書に基づく対応はしていない。	お子様の状態把握は確認して支援中の急な変化に迅速に対応できるように取り組んでいく。

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		支援の中でのヒヤリ・ハットとする瞬間があった時点で記録するようになっている。	今後も些細な場面でも見逃すことがないように意識向上を図っていく。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		定期的な研修と日々の意識確認、意識向上を図り、虐待防止の認知を高めている。	支援中の何気ない声かけや動作にも「虐待」に相当する言動が隠れていることにも意識を高めて対処していく。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		「身体拘束ゼロ」を厳守して、代替となる支援工夫、動作保護に徹して、意識確認をしている。	支援中の動作の中に該当する動作も含有しうるので、個々のお子様の支援打ち合わせを入念にするよう取り組んでいく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2021年 2月 6日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」備前三門校

保護者等数（児童数）：8 回収数：8 割合：100%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	2			・個別の療育は大丈夫だと思いますが、体を動かすには少し狭いと思います。 ・標準のスペース自体がわかりません。	可能な限り、有効且つソーシャルディスタンスを守りながら動けるように配慮します。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	6			2		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8				過ごしやすいです。	環境整備を心がけています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	7			1	定期的に見直してくれています。	6か月ごと、または保護者の要望があった時に、計画の見直しをしています。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			1	私には適切なのかはわかりませんが子どもにとって成果ができればうれしいです。	個々のお子様のニーズに合わせてどんな「資源」が必要かを考慮し、取り組んでいきます。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	8				毎回、子どもの好きなことを取り入れつつ、新しい事をして身に付けています。	
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	8				個別を希望しているのでこのままでいい。	
保護	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8				質問すると対応してくれている。	保護者からの質問には丁寧な説明ができるように心がけている。

者への説明等								
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8				支援の内容の説明をしてくれる。	お子様の発達を鑑みながら、定期的に計画の見直しや更新を提案させていただきます。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	1	1		6	ペアレントトレーニング自体がわかりません。	お子様主体の個別療育の実施にはなりますので、具体的なペアレントトレーニングが実施していません。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	8					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8				相談にのってくださってありがとうございます。	保護者の意向も踏まえつつ、ご助言させていただいている。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3		1	4	必要ありません。	
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	7	1				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8				いつでも相談しやすい環境です。	保護者の要望に適切に対応できるように心がけている。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	4			4		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	8					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6			2		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	1		1		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	7	1			・気分によりますが、ある日もありますが楽しみに通っています。 ・幼稚園ではできない事に注目されますが、きりりて出来ることを見つけてもらえるので本人の自信につながっています。	お子様のニーズに即した手段やツールを活用して楽しく学べる環境の確保をいたします。

	㉓	事業所の支援に満足しているか	8					
--	---	----------------	---	--	--	--	--	--

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。